

先端に付けた超小型テレビカメラによって胃粘膜を直接見る方法です。

内視鏡検査は病変部を直接観察でき、胃がん、慢性胃炎等の診断には大きな威力を発揮します  
必要な場合は同時に組織や細胞の一部を採取できます。検査時間はおおよそ5分程度です

## 胃カメラ検査で診断可能な疾病

胃がん 胃十二指腸潰瘍 十二指腸腫瘍 食道がん 逆流性食道炎 咽頭がん  
慢性胃炎 ピロリ胃炎

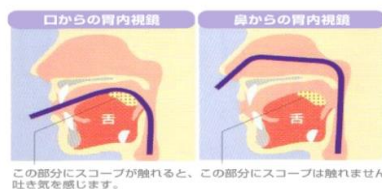
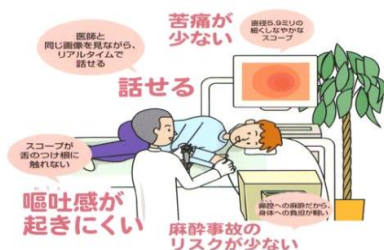
検査は径 5.8mm 程度の細くて柔らかいカメラを鼻、又は口から挿入して、咽頭食道、胃、十二指腸まで詳細に観察、診断します。

当院では、検査中の苦痛緩和のため、鼻から挿入する経鼻内視鏡検査を主体にお勧めいたしますが、従来通りの口からの内視鏡検査も可能ですのでご遠慮なく申し出て下さい

当院では約9割の患者さまが、鼻からの内視鏡検査を希望されています

口からの内視鏡では舌根部、咽頭部の刺激が大きくなり嘔気反射が強く、咽頭痛等の苦痛と伴います

鼻からの内視鏡検査では、カメラでの刺激がすくなく楽に検査を実施できます



## 前日の注意

夕食は固い物を避け、消化の良い物を食べて下さい 午後8時以降は水分以外は食べないで下さい

## 当日の注意

起床後は湯飲み1杯くらいの白湯、水は飲まれてかまいませんが、朝食は絶対に食べないでください

コーヒー、ジュース、牛乳なども飲まないで下さい

定期的内服治療薬がある方は服用しなして下さい

## 検査当日

検査予定時間前に来院して下さい 時間の余裕をみておこし下さい

当日の検査時間の都合で開始時間が多少前後することがあります

検査の予定時間に内視鏡検査室に職員がご案内します

## カメラ検査の前処置について

発泡剤(やや苦目の白い液体)を服用します 胃の中の泡を取りのぞき、胃の壁をきれいにします

鼻腔に局所血管収縮剤をスプレーします シュツとする感じで痛みはありません

麻酔薬を塗った細いチューブを挿入します

鎮静剤を注射しての眠った検査は原則施行しませんが、希望のある方はお申し出てください

当院では鎮静剤を併用した胃カメラ検査は全体の5%程度しか患者さまが希望されません

血液をさらさらにするお薬(アスピリン クロピドグレル ワーファリン エフィエント)を服用の方はお申し出下さい